

**ちょっとよってけはいべさ！
連休中のもんじゅ盛況**

5月3日から5日にかけて、道の駅上ノ国もんじゅにおいて毎年恒例の「よってけ市」が開催され、多くの来場者で賑わいました。

よってけ市は、特産品が豪華に盛り付けられたバーベキューセットの販売や豊富な魚介類、町内外の飲食店が自慢の料理をふるうなど、ゴールデンウィークの旅行者や地域の方々に人気があります。来場者が増え続けています。

3日続いた快晴にも後押しされ、全日程での来場者は昨年を2000人上回る1万5000人と過去最高を更新し、照りつける太陽のもと、会場は飲食を楽しむ多くの方々で溢れていました。



**上ノ国町歴史文化基本構想
策定に向けて**

5月13日、町内のあらゆる歴史と文化を保存し、その利活用の指標となる『上ノ国町歴史文化基本構想』の策定に向けたフォーラムが、ジョイびよぐらにて開催され約100名が参加しました。

歴史文化基本構想策定にあたっては、昨年からの町民に意見を募っており、このフォーラムではこれまで集まった地域の情報を踏まえ、関係文化財の展示や学生による調査報告発表などが行われるとともに、本町の歴史と所縁の深いアイヌ文化に詳しい専門家を招いた講演も実施されました。

最後は来場者によるディスカッションが行われ、5時間におよぶフォーラムでは新たな地域の歴史文化の掘り起こしや検証が進み、今後の構想策定に向けて、有意義な内容となりました。



大きな木々も、最初は苗木から

5月19日、檜山の森づくり実行委員会（干場清保会長）が主催する植樹祭が神明地区にて開催され、河北小学校や滝沢小学校の児童、上ノ国高校の生徒、檜山管内から約300名が参加しました。

この植樹祭は、毎年檜山管内の市町村が持ち回りで実行しており、今年で20回目を迎えます。

会場では、神明地区の斜面に、トドマツやヒノキアスナロ約500本が植樹され、いづれ育った樹木から葉が落ち、栄養として川から流れ出して海を豊かにすることが期待されています。

また、植樹の後には、1000尾のサクラマスが放流も行われ、豊かな海で成長したサクラマスがいづれこの川に戻ってきてほしいと、参加者一同が祈念していました。



パークゴルフシーズン到来

4月16日、少し肌寒い春風香るなか、天の川ふれあい広場のパークゴルフ場がオープンし、本町パークゴルフ協会（山崎淳一会長）主催による4月29日の月例会を皮切りに、本格的なパークゴルフの季節が到来しました。

パークゴルフは、老若男女が春から秋まで楽しむことができるスポーツとして人気があり、本町のパークゴルフ協会会員も増加していることから、今年はより一層にぎやかさを増している様子です。

また連休中の5月6日にも上ノ国町長杯PG大会が開催され、約30名の参加者が爽やかに競い合い、女子の部では森みね子さん（字中須田）が大会5連覇の快挙を成し遂げました。

まだまだ始まったばかりのシーズンですが、今年も町内でのパークゴルフの盛り上がりが期待されます。

